

# 追跡レポート

こないだ聴いたことあり  
どうなったただやあり

## 問 答

上村愛子選手に白馬村民栄誉賞を贈る気はありませんか。

白馬村民栄誉賞を新たに設け、第1号を贈ることにしました。



## おらが里づくり

白馬町 東八会 松澤 弘



「詩の小徑」散策路

白馬駅東から姫川までの木流川沿い、約1.5キロを称して『詩の小徑』と言います。「生活の糧に薪木を運びしと今に伝えて木流の川」書家の友部先生の詩が春木掲にあります。昭和20年代までここで春木(薪)を引上げていたと聞いています。

股発電所から姫川まで、灌漑用水として造られた人工川です。現在のような機動力のない時代に、住民の力強さを感じられます。田用水や製材又は精米用の水車の動力として使われていました。中でも山から切り出した木材の運搬と消防用水は重要な役割を果たしました。今でもこの恩恵は計り知れない大切な川です。

木立の中を奔る川の端に、歳月の産物とも言える高山植物が自生しているのが見られます。下流から眺める田園風景はすばらしく、写真家や画家に愛されています。私達はこの風景が好きで、ゴミ拾いや草刈から始め、地域の協力を得ながらこの活動も今年で6年目になります。次第に協力者も現れ自発的に掃除をする人を見かけます。スモモ並木に愛好者から寄せられた俳句川柳を木札にして掛けてあります。

川沿いの原野のヤブを刈り払ったあとには、自然にカキツバタやアザミ、ユウスゲなど生えてきました。特に春先のキクザキイチゲの群集は目を引きます。また所々に植えた大山桜も咲き始めお休み所になっていきます。

大出公園への迂回路として観光マップに紹介されてから、『詩の小徑』の散策を楽しむ人が増えてきました。

これからも仲間と知恵を出し合い、遊び心を大切に、楽しみながら進めていき、里山の優しさが訪れた人々の癒の場になれば幸いに思います。